

STS フォーラム主催「科学技術とイノベーションにおける協力強化のためのTICADVI日本・アフリカワークショップ」

安倍総理基調挨拶

平成 28 年 8 月 27 日(土曜日) 10:00～13:00(現地時間)

ケニヤッタ国際会議場(KICC)

本日は、皆さまとともに、STS フォーラムの会合に出席できたことを光栄に存じます。

私は、フォーラムが毎年秋に京都で開く年次総会に 4 回参加し、日本国総理としての記録保持者となりました。さらに記録を伸ばしたいと思います。

私はまた、フォーラムの創設者である尾身幸次理事長の御意向を踏まえ、フォーラムの名誉会長を務めています。

科学のための科学は、それとして大切でしょう。しかし尾身理事長の着眼とは、社会にとっての科学、技術を考えることは、もっと重要だというものでした。

150 年前、西洋の衝撃を受けた日本は、当初から、工学教育に力を注ぎました。科学が技術を生み、それが社会を強くする。この公式を証明したのが、日本の近代化です。

尾身理事長が、日本自身のそうした歩みに着目し、フォーラムを始めて 12 年。フォーラムは、もはや社会と科学、技術に関心

をもつあらゆる人々にとって、類例のない、一つの公共財になったと言っても過言ではありません。

フォーラムはいま、TICAD とともにアフリカの地を踏みました。その信念、科学と技術が社会を豊かにし、強くするという強い思いは、アフリカでこそ、大いなる意味をもつことでしょう。

なぜなら、今朝 TICAD 開会に当たって申しましたように、科学と技術は、アフリカの発展に、いままさに、「クウォンタム・リープ」をもたらしていると、私は確信しているからであります。

フォーラムには早くから、ケニアやジンバブエ、モザンビーク、エチオピア、ルワンダといった国々から、科学技術や教育の責任を有する大臣の方々が参加されて、今日に至ります。

加えて今回は、日本の技術をけん引する会社のリーダーの方々に、参加して頂いています。

アフリカというこの可能性の大陸で、日本の科学・技術が、またその教育が、人々の幸せを増すため、必ずや役立つことを信じて疑いません。

近年、インドやタイ、マレーシアやシンガポールに開催の場を求めてきた STS フォーラムは、いまやその意義を、世界の各地に広めようとしています。

そしてアフリカほど、STS フォーラムが貢献できる場所はない。  
なぜならここは、可能性の大陸だからだと再び申し上げ、私の  
挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。